NISSAY ASSET MANAGEMENT
投資情報室
（審査確認番号H29-TB418）

米国経済・株式市場情報

米金利と米株価の動向及び見通し

米金利の動向次第では米株価の値動きが荒くなる可能性も

- 米株価は今年に入っても上昇基調を続けている。その背景には、長期金利の低位安定が続く中で緩やかな景気拡大が継続するとの観測があるものと思われる。
- 2.6%台を上限に安定が続いていた米10年国債金利の動向に変化の兆しが見え始めている。今後の金利動向が米株価の行方を大きく左右することも考えられる。

【米金利動向】

- 1月19日に米10年国債金利は一時2.66%まで上昇し、トランプ政権誕生後のピークを抜き、約3年9ヵ月ぶりの水準まで上昇しました。要因として、昨年末に成立した税制改革法の施行による米国景気の過熱懸念、世界経済の拡大・需要増加観測を受けた石油等資源価格の上昇、インフレの高まりによるＦＲＢ（米連邦準備制度理事会）の金融引き締め加速懸念等が指摘されています。

【米金利と米株式の動向と見通し】

- ＮＹダウが1月17日に初めて26,000ドルを突破する等、米株価は今年に入っても堅調に推移しています。その背景には長期金利の低位安定が続く中で緩やかな景気拡大が継続するとの観測（熱くもなく寒くもない適温相場、いわゆるゴルディロックス相場の継続観測）があるものと思われます。トランプ政権誕生以降の米10年国債金利は2.6%程度を上限にボックス圏で推移してきました。
- 株価の上昇による益利回りの低下に加え、足元の金利上昇により、1月23日時点の利回り差（益利回り－10年国債金利）は2%を下回っています。リーマン・ショックは2%を下回る水準がしばらく続いた後に起こりました。今後、金利上昇が勢いを増す場合には、上記利回り差から見た株式の割高感が強まりそうです。1月23日時点でのＳ＆Ｐ500指数ベースの予想ＰＥＲ（株価収益率）は18.8倍と、リーマン・ショック後の2009年1月末から2017年12月末までの平均（月末値ベース）約16倍を超えており、一部では米株価の過熱感を指摘する声もあります。今後の金利動向が米株価の行方を大きく左右することも考えられます。

図表1：米10年国債金利の推移

図表2：米株価と利回り差の推移

※益利回り：1株当り利益を株価で割ったもので、一般的に利回りが高いほど割安とされる
※利回り差：一般的にプラスの利回り差が大きいほど、株式は割安とされる

出所）図表1～2はブルームバーグデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
商 号 等：ニッセイアセットマネジメント株式会社　　金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第369号
加入協会：一般社団法人投資信託協会　一般社団法人日本投資顧問業協会